



ばんどり



山形県の庄内地方では、荷物を背負う時に使用した背中当てを「ばんどり」と呼びます。明治から昭和期にかけて、農山漁村で広く使われていたものです。藁を主な材料としますが、麦藁や菅、蒲、麻縄や綿糸、毛糸なども使われました。山村ではヤマブドウヅルやシナの樹皮、漁村では古い漁網なども用いられました。冬期間に男子によって作られたようです。ばんどりは手、床、甲からなります。手は両肩にかかる部分、床は背中に当たる部分で、甲は床の表面で荷物に接する面です。特に甲は、縄や紐で手の込んだ編み方をしています。重い荷の負担をやわらげたばんどりですが、空荷の時の見栄えも考えて、蜘蛛の巣や亀甲、蛇の目模様(まきこうじょう)に編んだり、飾り結びをしたり、色糸や布を使って仕上げた美しい装飾のものが多くあります。特に嫁入り道具を運ぶための「祝いばんどり」は、ひとときわ華やかな作りです。今では使われなくなった作業用具ですが、機能だけでなく造作装飾の美しさも鑑賞してください。

ばんどりはこのように使われていました！



撮影 伊藤孝紀



撮影 酒井忠明



致道博物館蔵



致道博物館蔵



撮影 酒井忠明

企画展

ばんどり

庄内の美と歴史

2006年10月7日～12月10日

協力 財団法人致道博物館／酒田市立資料館／原始布・古代織参考館
JA庄内たがわ農業協同組合藤島支所・楽々藁工房

山形県立博物館

● 記念講演会 ●

「ばんどりの機能と美」

10月21日（土）午後1時30分～3時30分

講師 犬塚幹士（致道博物館 常務理事）

■ 展示解説会 ■

10月8日(日) / 11月26日(日) / 12月10日(日)

午後1時30分から学芸員が解説します

庄内地方のぼんどり

ぼんどりは地域により形や作り方の違いがあり、それに伴い、ころぼんどり、しとぼんどり、浜ぼんどり、はねぼんどり、祝いぼんどり、山ぼんどり、ねこぼんどり、などいくつもの呼び名がありました。

庄内地方のぼんどりの分類

区分	ころぼんどり	しとぼんどり	はねぼんどり	ねこぼんどり	その他
形	藁束をU字形に曲げ、藁を巻いてこの上に縄を蜘蛛の巣のようにかける。楕円形、円形、甲は厚い。	藁束を並べて編んだもので四角、梯形で厚い。	ころぼんどりなどの手に羽根のような装飾を付けたもの。	ねこ編みにしたもので、長方形または楕円形で、薄手で丈が長い。	手や床が厚く、箱形(厚さ20センチくらい)。
材料	稲藁、蒲、菅、布、紡績糸、ヤマブドウツルほか。	稲藁、麦藁、蒲、菅、布、紡績糸。	稲藁、麦藁、菅、クゴ、ウルキヤ、紡績糸、色紙他。	稲藁、麦藁、蒲、ミヨウガ、布。	稲藁、木、布
使用地域	庄内地域全域(田川地方に多い)	旧酒田市南部の漁村	田川地方と飽海地方の農村	庄内地方全域	庄内地方の米穀倉庫のある地域
呼び名	ころぼんどり まるぼんどり くものすぼんどり じゃのめぼんどり やまぼんどり	しとぼんどり	いわいぼんどり みのぼんどり はねぼんどり こしきりぼんどり かへぼんどり	ねこぼんどり しょんびきぼんどり みょうがぼんどり わらじぼんどり	こめしよいぼんどり

ぼんどりの各部の名称



ころぼんどり



ころぼんどりは丸ぼんどりとも呼ばれます。甲の部分が円形や楕円形をしており、やや盛り上がった形をしています。甲の様子は蜘蛛の巣編みや蛇の目模様などが多く見られます。山村ではヤマブドウツルやシナ樹皮を用いた山ぼんどりがあります。漁村では、甲に漁網を上手く活用した浜ぼんどりも見られます。

しとぼんどり

しとぼんどりは角形のぼんどりで、主に海岸部の地域で使われました。魚箱や砂箱を背負って運ぶのに都合よい、薄く平たい特徴ある形になったようです。



ねこぼんどり

ねこぼんどりは、藁をねこ編みにしたもので、薄手で丈が長めなのが特徴です。



はねぼんどり

はねぼんどりは、手の部分に羽根のような飾りが付けられたものです。祝いぼんどりともいい、色糸や布を編み込んだりした美しい装飾が特徴です。婚礼の嫁入り道具を運ぶ際に使われました。



その他 米背負いぼんどり

米穀倉庫などで使われた、米俵を背負う専用のぼんどりです。手や床が厚く丈夫に作られ、見るからに機能重視のものです。

